

おわりに

30年余に亘って続けられた勝山館跡の調査は、中世から近世初頭にかけて日本海側の政治・軍事・経済・交易の拠点として殷賑を極めたことの一部を明らかにし、上之国館跡は本町の誇るべき歴史遺産として確固たる地歩を築くこととなった。

しかし、当町は行政面積が広大で、集落は海岸沿いの漁村から天の川上流域の農山村まで40km 超に亘って細長く散在し、それぞれ草創以来の固有の歴史を有し、また守り伝えるべき文化財や伝統文化を有している。そうした集落の歴史や文化が粗略に扱われてはなるまい。

文化財行政は地域住民の身近な歴史への接近を図り、地域との不断の対話の中からそれぞれの地域の歴史を描き、そして描出された歴史を一つ一つ繋ぎ合わせて全体像を構築する運動への展開がもためられている。

こういった運動こそが史跡に象徴される文化財を後世に伝えるための迂遠ではあるが、確かな道標である。多難な課題に立ち向かうためにも、地域住民の目線の深層にまでいまいちど降り立つ必要があるだろう。

【註】

- (1) 小林真人「北海道の戦国時代と中世アイヌ民族の社会と文化」『北の内海世界』山川出版社 1999
- (2) 榎森進「アイヌ民族の去就」『北から見直す日本史』大和書房 2001 ほか
- (3) 久保泰「静浦D遺跡と道南地方の擦文文化」『考古学ジャーナル』No.213 ニュー・サイエンス社 1983
- (4) 金子浩昌「青苗貝塚の動物遺体の特徴と擦文人の経済活動について」『青苗貝塚における骨角器と動物遺体』奥尻町教育委員会 2003
- (5) 関口明「渡嶋蝦夷と毛皮交易」『古代東北の蝦夷と北海道』吉川弘文館 2003ほか
- (6) 大石直正「中世の黎明」『中世奥羽の世界』東京大学出版会 1978
- (7) 遠藤巖「蝦夷安東氏小論」『歴史評論』6月号 校倉書房 1986ほか
- (8) 遠藤巖「安藤・秋田氏」『地方別 日本の名族—東北編1』新人物往来社 1989ほか
- (9) ①石井進「中世のかたち 日本の中世1」中央公論新社 2002、②小口雅史「津軽安藤氏の歴史とその研究」『津軽安藤氏と北方世界』河出書房新社 1995
- (10) 前掲(8)に同じ
- (11) 前掲(9)の①に同じ
- (12) 遠藤巖「中世国家の東夷成敗権について」『松前藩と松前』9号 松前町史編纂室 1976
- (13) 入間田宣夫「北の平泉」『北の平泉、南の琉球』中央公論新社 2002
- (14) 海保嶺夫「エゾの歴史」講談社 1996ほか
- (15) 前掲(12)に同じ
- (16) 前掲(12)、(8)、(9)の②に同じ
- (17) 前掲(14)に同じ
- (18) 佐々木利和「中世の「蝦夷」史料「諏訪大明神画詞」より」『どるめん』11号 1976
- (19) 前掲(14)、(18)に同じ
- (20) 大石直正「平泉藤原氏と津軽安藤氏」『津軽安藤氏と北方世界』河出書房新社 1995、菊池勇夫「北方史研究の現状と課題」『歴史評論』No.500 校倉書房 1991ほか
- (21) 榎原滋高「十三湊の都市構造と変遷」『中世十三湊の世界 —よみがえる北の港湾都市—』新人物往来社 2004
- (22) 大石直正「北の海の武士団・安藤氏」『日本海と北国文化 海と列島文化1』小学館 1990ほか
- (23) 前掲(8)に同じ
- (24) 前掲(8)に同じ
- (25) 前掲(20)に同じ
- (26) 入間田宣夫「北方海域における人の移動と諸大名」『北から見直す日本史』大和書房 2001
- (27) 前掲(26)に同じ
- (28) 前掲(26)に同じ
- (29) 榎森進「日本民衆の歴史 地域編8 アイヌの歴史」三省堂 1987 ほか
- (30) 前掲(26)に同じ
- (31) 前掲(1)に同じ
- (32) 小林真人「商場知行制成立過程についての一考察」『松前藩と松前』22号 松前町史編纂室 1984
- (33) 前掲(8)に同じ
- (34) 前掲(29)に同じ
- (35) 榎森進「「蝦夷地」の歴史と日本社会」『日本の社会史 第1巻』岩波書店 1987ほか
- (36) 前掲(9)の①に同じ
- (37) 田端宏「蝦夷地から北海道へ」吉川弘文館 2004
- (38) 前掲(37)に同じ
- (39) 海保嶺夫「蝦夷地開拓期の和人地の動向」『列島北方史研究ノート』北海道出版企画センター 1986
- (40) 室野秀文「花沢館の規模と構造」『町内遺跡発掘調査等事業報告書X』上ノ国町教育委員会 2007
- (41) 松崎水穂ほか「北海道洲崎館発見の中世遺物と頭首」『考古学雑誌』第67巻第2号 1981
- (42) 網野善彦「日本史再考」日本放送出版会 1996、大石直正「北の周縁、列島東北部の勃興」『周縁から見た中世日本』講談社 2001ほか
- (43) 榎森進「上之国勝山館・花沢館の沿革」『史跡上之国勝山館跡・花沢館跡保存管理計画書』上ノ国町教育委員会 1978
- (44) 小野正敏「遺跡・遺物の違いから見た北と畿内—勝山館を見直す」『北から見直す日本史』大和書房 2001、(9)の①に同じ
- (45) 網野善彦「北国の社会と日本海」『日本海と北国文化 海と列島文化1』小学館 1990
- (46) 網野善彦・石井進・福田豊彦「沈黙の中世」平凡社 1990における網野善彦氏の発言を引用した。
- (47) 前掲(9)の①に同じ
- (48) 児島恭子「古地名を読む—十三湊と上ノ国—」第7回かみのくに歴史講座・講演記録 1998
- (49) 市村高男「再現 勝山館の付属都市 歴史を生かすまちづくりのつどい」講演記録 1995
- (50) 松崎水穂「勝山館跡とその城下の謎」『北から見直す日本史』大和書房 2001
- (51) 山田秀三「東北と北海道のアイヌ語地名考」『山田秀三著作集3 ア

- イヌ語地名の研究』草風館 1995
- (52) 日下雅義『平野は語る』大巧社 1998
- (53) 前掲(49)に同じ
- (54) 吉岡康暢「北海道の中世陶器」『北海道の研究 第2巻 考古篇II』清文堂 1984
- (55) 松崎水穂「境界の地・「和人地」の人のびと」『人類にとって戦いとは』5 東洋書林 2002

【引用・参考文献】

- 松崎水穂『上ノ国村史』上ノ国村 1956
 松崎水穂『続上ノ国村史』上ノ国村 1962
 松前景廣「新羅之記録」『新北海道史 第7巻 史料1』北海道庁 1969
 松前廣長「福山秘府」『新撰北海道史 第5巻 史料1』北海道庁 1936
 「津軽一統志」『青森県史資料編 近世1』青森県 2001
 「松前嶋郷帳 元禄十三年」『続々群書類従』第9 国書刊行会 1906
 「天保郷帳(二) 附元禄郷帳」『内閣文庫所蔵史籍叢刊』56 汲古書院 1984
 『上ノ国町 教育振興基本計画』上ノ国町教育委員会 2010
 『上ノ国村の地質』北海道立地下資源調査所 1965
 『道立自然公園総合調査(檜山道立自然公園) 報告書』社団法人北海道自然保護協会 1988
 小崎高ほか編『日本の自然 地域編1 北海道』岩波書店 1994
 『第45回特別展 北の古代史をさぐる 擦文文化』北海道開拓記念館 1997
 『北海道史蹟名勝天然記念物調査報告書』北海道庁 1924
 「家督普請扣」『△能登屋笹浪家文書』No.179-1 1857~1858
 「〔覚書〕(楡沢蔵地所二付論地)」『△能登屋笹浪家文書』No.180 明治10年(1877)
 「御書上 上ノ国」『△能登屋笹浪家文書』No.877 天保10年(1839)推定
 『笹浪氏諸留』北海道大学附属図書館北方資料室データベース
 『御田国上之国江御代参被仰付候日記』北海道大学附属図書館北方資料室データベース
 『松前西東在郷並蝦夷地所附』北海道大学附属図書館北方資料室データベース
 佐藤玄六郎「蝦夷拾遺」『北門叢書』第1冊 北光書房 1943
 高橋北四郎ほか「蝦夷巡覧筆記」函館市立中央図書館蔵 1797
 古河古松軒『東遊雑記』平凡社 1986
 持主夏堀善右衛門『松前随商録』函館市立中央図書館蔵
 菅江真澄「蝦夷喧辞弁」『菅江真澄全集 第二巻』未来社 1982
 遠山金四郎「遠山・村垣 西蝦夷日記」『厚川会資料』北海道出版企画センター 1982
 田草川伝次郎『西蝦夷地日記』石原求龍堂 1944
 松浦武四郎『校訂 蝦夷日記 二編』北海道出版企画センター 1999
 松浦武四郎『竹四郎廻浦日記 上』北海道出版企画センター 2001
 松浦武四郎『渡島日誌』『武四郎蝦夷地紀行』北海道出版企画センター 1988
 新田千里「松前家記」『松前町史料編 第1巻 上』松前町 1974
 松山郡俄山村外六村戸長役場編『青江理事官諮問回答書 上』函館市立中央図書館蔵 1886
 『松前町史通説編 第1巻 上』松前町 1984
 『余市町史 第1巻 資料編1』余市町 1985
 H・チースリク編『北方探検記』吉川弘文館 1962
 知里真志保『地名アイヌ語小辞典』北海道出版企画センター 1997
 大場利夫ほか「楡山南部の遺跡」上ノ国村教育委員会・江差町教育委員会 1955
 大場利夫ほか『上ノ国遺跡』上ノ国村・同教育委員会 1961
 渡辺兼庸ほか「北海道楡山郡宮ノ沢遺跡」『考古学雑誌』第56巻第1号 1970
 其田良雄『上ノ国町四十九里沢A遺跡発掘報告書』上ノ国町教育委員会 1974
 荒木伸介ほか『上ノ国漁港遺跡—昭和58年度発掘調査概報—』上ノ国町教育委員会 1984
 荒木伸介ほか『上ノ国漁港遺跡—昭和58・60年度発掘調査報告書—』上ノ国町教育委員会・函館土木現業所 1987
 文化財建造物保存技術協会編『重要文化財旧笹浪家住宅(主屋・土蔵)保存修理工事報告書』上ノ国町教育委員会 2003
 文化財建造物保存技術協会編『史跡上之国勝山館跡内米・文庫蔵組立復元工事報告書』上ノ国町教育委員会 2003
 網野善彦・石井進編著『北から見直す日本史』大和書房 2001
 榎森進「アイヌ民族と安藤氏」『津軽安藤氏と北方世界』河出書房新社 1995
 榎森進『アイヌ民族の歴史』草風館 2007
 大石直正「外が浜・夷島考」『関見先生還暦記念 日本古代史研究』吉川弘文館 1980
 海保嶺夫『中世蝦夷資料』三一書房 1983
 海保嶺夫『中世の蝦夷地』吉川弘文館 1987
 遠藤巖「北の押え」の系譜』『アジアのなかの日本史II 外交と戦争』東京大学出版会 1992
 入間田宣夫「鎌倉幕府と奥羽両国」『中世奥羽の世界』東京大学出版会 1978
 菊池勇夫『アイヌ民族と日本人』朝日新聞社 1994
 菊池勇夫「蝦夷島と北方世界」『蝦夷島と北方世界』吉川弘文館 2003
 上村英明「北の海の交易者たち」同文館 1990
 松崎水穂「和人地・上ノ国館跡 勝山館跡出土品に見るアイヌ文化」『エミシ・エゾ・アイヌ』岩田書院 2008